

「北方領土返還要求中央アピール行動『アピール行進』」
出発式における辻清人外務副大臣挨拶文

本日御参集いただいている皆様におかれましては、日頃から北方領土問題の解決に向けた環境整備、国民世論の啓発と結集のため、様々な活動に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

北方領土問題は、日露間の最大の懸案事項です。私自身、平成27年に北方四島交流事業で国後島を訪問しており、北方領土問題解決への強い思いを持っております。

日本国政府は、この問題を解決して平和条約を締結するとの方針の下、ロシア政府との間でこれまで粘り強く交渉を進めてきました。しかし、昨年2月、ロシアはウクライナに対する侵略を開始しました。

ロシアによるウクライナ侵略は国際秩序の根幹を揺るがす暴挙です。ロシアによるウクライナ侵略を一日も早く止めさせるため、我が国は、G7を始めとする国際社会と連携しつつ、ロシアに対して厳しい制裁を行うなどの取組を進めてまいります。

同時に、例えば、漁業などの経済活動や海洋における安全に係る問題のように日露が隣国として対処する必要のある事項については、我が国外交全体において、何が我が国の国益に資するかという観点から適切に対応してまいります。

日露関係は、ロシアによるウクライナ侵略によって引き続き厳しい状況にあります。政府として、北方領土問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持してまいります。

また、北方四島交流等事業の再開は最優先事項の一つです。平均年齢88歳の御高齢となられた元島民の方々の切実なお気持ちに何とか応えたいとの強い思いをもって、ロシア側に対し、特に北方墓参に重点を置いて事業の再開を引き続き強く求めてまいりますので、関係者の皆様には何とぞ御理解・御支援いただければと思います。

本日の「アピール行進」のように、根室管内の皆様が中心となって全国民に訴えかけることは、我々への強力な後押しとなります。北方領土問題の解決に向け、力強い御支援と御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

(了)